

授 業 科 目 名	教育の方法と技術	教 員 名	渡邊耕二 坂倉真衣	免許・資格 との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	講義	担当形態	複数	卒業要件	保育士	
科 目 番 号	SID207	配当年次	2年前期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	必修	
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（幼稚園、小学校）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等	・教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	<p>全体目標： 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(1)教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。</p> <p>(2)教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>(3)情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>					
到 達 目 標	<p>(1)教育の方法論</p> <p>1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。</p> <p>3)学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。</p> <p>4)学習評価の基礎的な考え方を理解している。</p> <p>※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」</p> <p>(2)教育の技術</p> <p>1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3)情報機器及び教材の活用</p> <p>1)子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。</p> <p>※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」</p> <p>2)子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	今日学校教育においては、児童の発達段階や個性に応じた様々な教育の方法及び技術が求められる。また、情報機器を活用した効果的な授業を行い、情報活用能力を育成するため、電子黒板などのICT機器の活用方法及び技術を習得することが重要である。					

	<p>本講義では、教育目標に向かって子どもの成長発達を促すための授業構成と学習構成の理論的な理解、そして具体的な教育の方法・技術について学習する。そして、子どもの学びを促進する授業・学習の理論的理解と教育の方法と技術を習得する。さらに講義の終盤では、学習指導案の作成やテストの作成・運用を通して、授業の目標、内容、指導、評価に関する理論的知識の習得とともに、望ましい教育方法の在り方を研究する。授業形態は講義とする。アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。</p>
授 業 計 画	<p>第1回：</p> <p>【小幼コース】学習指導要領と授業1（渡邊耕二） 日本の教育制度の特色について、教育課程の基準としての学習指導要領、教科書に関する制度を理解する。（目標（1）-1、（1）-2）</p> <p>【幼保コース】幼児期の教育の基本（坂倉真衣） 3法令の改定の変遷から日本の幼児教育について学び、現在の3法令が目指す幼児教育について理解する。幼児期の教育の目的や目標、保育・教育施設の教育の基本を踏まえて設定すべき保育内容に関する理解を深める。特に、3法令に示されている5領域の趣旨や特質について学ぶ。（目標（1）-1、（1）-2、（1）-4）</p> <p>第2回：</p> <p>【小幼コース】学習指導要領と授業2（渡邊耕二） 日本の教育制度の特色について、年間指導計画、単元の指導計画、1時間の授業の関与と、指導法と教科書・教材の活用、学習スキルや学習規律の必要性といった教育の方法と技術の必要性について理解する。（目標（1）-1、（1）-2）</p> <p>【幼保コース】幼児期の教育の基本（坂倉真衣） 幼児期の教育を展開していく上で、踏まえておくべき幼児期の特徴と発達特性の理解を深める。また、一人一人の発達の特性を踏まえた指導の在り方について学ぶ。保育の基本である環境を通して行う教育や幼児の自発的な活動として重要である遊びの意義について理解する。（目標（1）-1、（2）-1、（1）-4）</p> <p>第3回：</p> <p>【小幼コース】教育方法の原理と学習評価（渡邊耕二） 授業設計の方法、授業の根幹をなす学習目標について、具体例とともに理解する。また、学習評価の基礎的な考え方について、評価の方法やバイアス、絶対評価・相対評価・個人内評価を理解する。（目標（1）-3、（1）-4）</p> <p>【幼保コース】保育実践の現状と課題1（坂倉真衣） 海外の保育方法について学び、海外の保育方法を導入する際の課題について理解する。近年、注目されている新しい保育方法についても調べ、それを導入する際のメリット・デメリットを両面から検討できるようになる。（目標（1）-1、（1）-2、（1）-3）</p> <p>第4回：</p> <p>【小幼コース】授業中の教師の意思決定（渡邊耕二） 授業中での教師の意思決定について、具体的な場面を例にし、意思決定の定義、必要とされる知識、意思決定能力を自信で鍛える過程を理解する。（目標（1）-2、（1）-3）</p> <p>【幼保コース】保育実践の現状と課題2（坂倉真衣） 幼児教育における保育形態の現状、課題について学ぶ。一斉保育、自由保育等の多様な保育形態の現状を理解し、成果、課題の両面から検討できるようになる。（目標（1）-1、（1）-2、（1）-3）</p> <p>第5回：</p> <p>【小幼コース】授業における発問と指示1（渡邊耕二） 授業における発問と指示の役割とその組み合わせを整理し、発問と指示の種類と効果について理解する。（目標（1）-3、（1）-4）</p> <p>【幼保コース】保育内容の指導法（坂倉真衣） 幼稚園教育要領に記載された幼児期の規範意識や、協同的な遊びなどについて理解し、規範意識</p>

の芽生えを培うためや、協同的な遊びを促すための教師の関わりについて理解する。(目標 (1) -1、(1) -2、(1) -3)

第6回:

【小幼コース】授業における発問と指示2 (渡邊耕二)

優れた発問と指示について具体例を示し、使い分けの方法や発問と指示を生かす留意点について理解する。(目標 (1) -3、(1) -4)

【幼保コース】幼児期における情報機器の活用と課題1 (坂倉真衣)

幼児の情報機器の使用についての現状を把握し、それによる心身への影響について理解する。その上で、保育で情報機器を活用する意義について学ぶ。(目標 (1) -2、(1) -3)

第7回:

【小幼コース】教科書活用の技術 (渡邊耕二)

教科書を活用する基本的な考え方と効果、教科書の内容や構成について理解する。また、教科書を活用した教材研究や授業準備の方法について理解する。(目標 (1) -3)

【幼保コース】幼児期における情報機器の活用と課題2 (坂倉真衣)

保育現場で実践されている情報機器の活用例から、保育での効果的な情報機器の活用の仕方学ぶ。(目標 (2) -1、(3) -2)

第8回:

【小幼・幼保コース】教育の情報化について (小林博典)

「教育の情報化」の全体像を捉えるとともに、教育の情報化が推進されている背景や、学習指導要領における教育の情報化の位置付けを理解する。(目標 (1) -1)

第9回:

【小幼・幼保コース】教師によるICT活用 (小林博典)

ICTを活用した効果的な教室環境づくりや教材収集・作成に関して学ぶとともに、教育方法の理論を踏まえながらICTを効果的に活用した計画やわかる授業・保育を実践する方策について理解する。(目標 (2) -1、(2) -2)

第10回:

【小幼コース】子どものICT活用 (小林博典)

子どもによるICT活用が求められる意義や期待される効果について教師によるICT活用と対比して学ぶとともに、具体的な学習場面と日常的な活用によりICTの基本的な操作を習得させる意義や方法を理解する。(目標 (3) -1)

【幼保コース】ICT機器を活用した教育・保育実践 (坂倉真衣)

幼児教育における情報機器の活用の実際を学び、ICTを活用した教材収集や教材作成の方法を理解する。(目標 (1) -3、(2) -1)

第11回:

【小幼コース】情報活用能力の育成 (小林博典)

小学校の情報教育について、情報活用能力の定義とその育成の動向について学ぶとともに、情報活用能力を育成する教材開発に関して、各教科・領域の中で指導する教科横断型教材と教科をもとにする指導する教科型教材について理解する。(目標 (3) -1)

【幼保コース】ICT機器を活用した教育・保育実践 (表現) (坂倉真衣)

ICTを活用した教材収集や教材作成の方法を活用した絵本のプレゼンテーション教材の作成を通して、ICTの基本的な操作を習得し、保育の実践力を向上させる。(目標 (2) -1、(3) -1)

第12回:

【小幼コース】情報モラル教育 (小林博典)

情報モラル教育の必要性や情報モラル教育は情報活用能力の一部に含まれることを学び、メディアや情報社会に関する科学的な理解を踏まえた実践例や授業づくりの考え方について理解する。(目標 (3) -2)

【幼保コース】ICT機器を活用した教育・保育実践 (環境) (坂倉真衣)

幼児の好奇心・探究心の育ちにつながる、ICT機器の活用について学ぶ。植物栽培と科学あそびを

	<p>題材とし、「普段見えないものが見えるようにする」技術を習得する。具体的には、定点カメラを用いて植物の成長過程を可視化したり、スローモーションカメラを用いてしゃぼん玉や水風船の動態を観察したりして、幼児の五感を用いた環境との関わりを発展させる方法を学ぶ。(目標 (2) -1、(3) -1)</p> <p>第13回： 【小幼コース】プログラミング教育 (小林博典) 小学校におけるプログラミング教育の位置づけや目指すものについて小学校学習指導要領や「小学校プログラミング教育の手引」から学び、プログラミングを学ばせる手順や具体的な授業の方法について理解する。(目標 (2) -1) 【幼保コース】模擬保育の実施と検討1 (坂倉真衣) グループでICTを活用する保育を構想し、プランを作成して、模擬保育の行う準備をする。(目標 (2) -1、(2) -2)</p> <p>第14回： 【小幼コース】模擬授業の構想と準備 (小林博典) 教師・児童のそれぞれがICTを活用する授業を構想し、プランを作成して、教師の指示・発問を考えたり、児童の反応を想定したりして、模擬授業を行う準備をする。(目標 (2) -1、(2) -2) 【幼保コース】模擬保育の実施と検討2 (坂倉真衣) グループでICTを活用する保育を構想し、プランを作成して、模擬保育の行う準備をする。(目標 (2) -1、(2) -2)</p> <p>第15回： 【小幼コース】模擬授業の実施と検討 (小林博典) グループ内でICTを活用した模擬授業を行い、それぞれの良かったところや改善点などを出し合い、全体で共有する。(目標 (2) -1、(2) -2) 【幼保コース】模擬保育の実施と検討3 (坂倉真衣) グループでICTを活用した模擬保育を行い、幼児教育におけるICT活用についての効果と課題を協議し理解を深める。(2) -1、(2) -2、(3) -1)</p> <p>期末試験：試験期間中に実施する。</p>
学生に対する評価	<p>期末試験 (60%)、レポート (40%) を総合して評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授業外学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>毎回の講義では、事前学習として、講義前に配布されたプリントや指示された教科書・参考書を読み、重要な個所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学習として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</p>
テキスト	<p>適宜、講義で配布する。</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術 堀田龍也・佐藤和紀編著 三省堂 ・教職課程研究会 山下省蔵編著 教職必修 教育の方法と技術 実教出版 ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化社 ・柴田義松編著 教育の方法と技術 学文社 ・師岡章編著 幼児教育の指導法 放送大学教育振興会 <p>参考資料等：文部科学省 資料：学習評価・指導要録 関係報告・通知</p>
担当者からのメッセージ	<p>学校教育では、子どもの学びの成果である学力に関する議論や、それを育てる授業作りにおいて不可欠なことが多くあります。それらに関連付けて一つ一つ理解し、実践に活かせるようにする必要</p>

	があります。授業の内容がどのように関連付くのかを整理し、理解が及ばなかったことは、オフィスアワーの時間を活用して、必ず理解するように努めてください。
オフィスアワー	渡邊耕二：金曜日 9：00～12：00 坂倉真衣：火曜日 3・4限